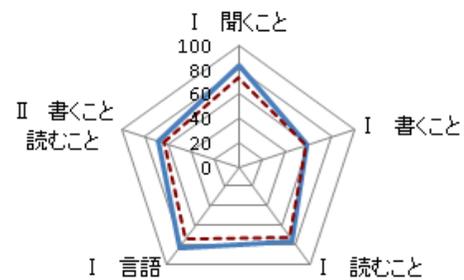
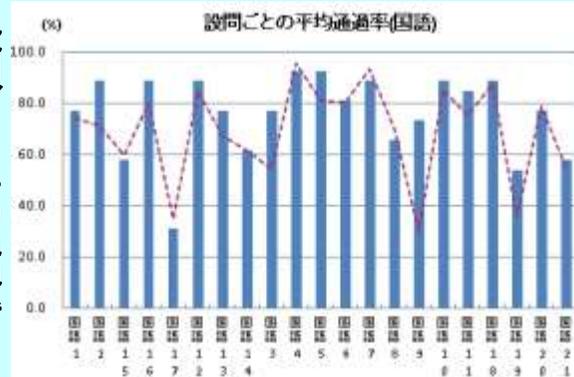


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校75.6%, 県69.2%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向
タイプⅠの通過率は 77.4%である。(県通過率 70.4%) 4領域の中では「聞くこと」と「言語」の領域に比べ、「書くこと」(59.0%)の通過率が低い。「書くこと読むこと」の複合的な力が試されるタイプⅡの通過率は 68.3%である。(県通過率 64.0%)
- 昨年度の課題への取組の成果
昨年度は、「読むこと」の「要旨の把握」に関する問題の通過率が 46.4% (県通過率 53.7%) と低かった。要旨を把握する力がついていない生徒が多いため、様々な教材文の要旨を捉えさせる指導を行った。結果として「要旨の把握」の通過率が、53.8%で県通過率より 18.4%高かったが、数値としてはまだ低く課題である。(県通過率 35.4%)

重点課題

- 【課題1】 領域「書くこと」の「叙述の仕方の確認 (通番 17)」に関する問題について、「求められることを明確にして、複数の内容が含まれた文を二文に分ける」ことに課題が見られる。本校の通過率 30.8% (県通過率 34.6%)
- 【課題2】 領域「読むこと」の「要旨の把握 (通番 19)」に関する問題の通過率が低い。説明文を正しく読みとって、段落ごとに要旨を把握し、端的に短くまとめる力が弱い。本校の通過率 53.8% (県通過率 35.4%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- 【課題1】 条件を満たした記述の必要があるため、問題文をよく読むことを習慣づける。求められる条件を押さえること、元の文に余分な言葉を付け加えないことなど、類題を反復して解くことで定着をはかる。また、「主語を補う」という指示内容に正確に答えられるように基礎的な文法事項の定着をはかる。
- 【課題2】 昨年度に続き、要旨を把握する力をつけていくため、様々な文章の要旨を捉えさせる指導を行う。説明文や意見文を短文に要約させたり、物語文のあらすじや要点を押さえて 200 字程度にまとめさせたりする指導を仕組んでいく。

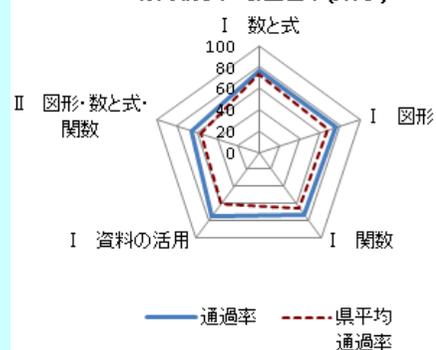
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2年生 H29 基礎・基本1回目	2年生 H29 基礎・基本2回目			1年生 H29 基礎・基本1回目	1年生 H29 基礎・基本2回目	
目標値	50%	70%			50%	70%	
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	2年生 H29 基礎・基本1回目	2年生 H29 基礎・基本2回目			1年生 H29 基礎・基本1回目	1年生 H29 基礎・基本2回目	
目標値	65%	75%			65%	75%	
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校73.3%, 県66.9%)

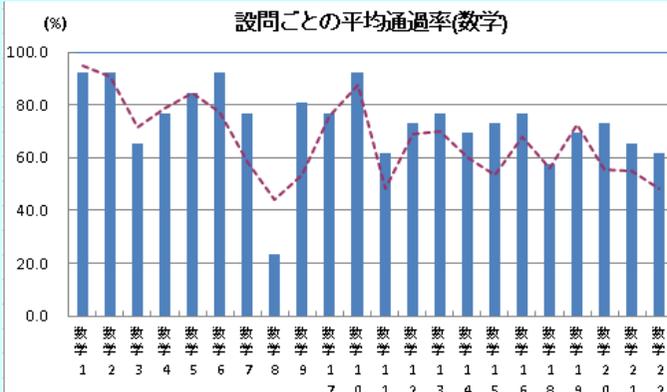
領域別平均通過率

領域別平均通過率(数学)



設問ごとの平均通過率

設問ごとの平均通過率(数学)



本年度の結果について

○全体的な傾向

数学教科全体通過率は73.3%, タイプ I の通過率は75.6% (数と式76.2%, 図形75.6%, 関数73.1%, 資料の活用75.0), タイプ II (図形・数と式・関数) の通過率は65.4%であった。無答率については, タイプ I, タイプ II 全体で0.0%と無回答はなかった。基礎的・基本的な内容については概ね定着が図られていると思われるが, 自然数の意味を答える問題や作図を利用する問題の通過率が低い。

○昨年度の課題への取組の成果と課題

昨年度は割合についての知識・理解の通過率が39.3%と不十分であった。授業での教材や活動の工夫, 家庭学習等の取組みにより, 市学力到達度検査での割合の通過率は+10.7ポイントの改善が見られた。

重点課題

【課題1】

数学8の「自然数の意味」に関する問に対して, 通過率が23.1%であった。県平均は44.2%であり, -21.1%であった。

【課題2】

数学18の「作図の利用」に関する問に対して, 通過率が57.7%であった。県平均は56.1%であり, +1.6%であったが, 42.3%の生徒が誤った選択をしてしまった。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

自然数の概念を正しく定着させるため, 小学校内容の復習を行い, 自然数と正の整数が同じ意味であることを再確認する。また, 生徒同士で問題を出し合い, お互いに確認し合う場面を意図的に取り入れる。数の概念は, 単元を超えて復習することができるので, 単元ごとの中で学び直す場面を仕組みたい。

【課題2】

既習の3つの作図の方法を学び直す時間を確保する。また, 作図の手順を確認するだけでなく, 作図をした結果, 等しい角や辺に印をつけるなどの工夫をさせたい。さらに, 一定のまとまりのある文章からポイントとなる部分を読み解く力をつけさせるために, 家庭学習等で継続的に行っていきたい。

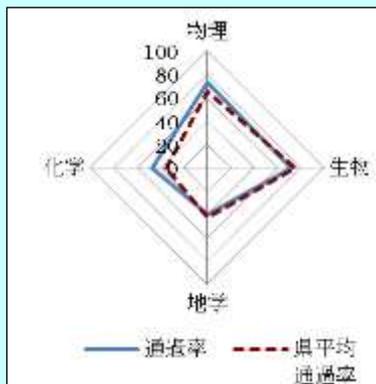
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年・H29 [3]		2年・市学力到達度検査 数の概念に関わる問題		1年・H29 [3]
目標値			50%		50%		60%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年・H29 [10]		2年・市学力到達度検査 作図問題		1年・H29 [3]
目標値			65%		65%		70%
実施後数値							

指導方法等の改善計画について (理科)

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 58.1%, 県 50.8%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向
 - タイプⅠは、物理 65.4%、化学 43.6%、生物 76.9%、地学 56.4%の通過率であった。この結果から物理、生物、地学分野の基礎的・基本的な内容はおおむね定着が図られている。一方、化学分野では、実験観察の技能などが十分身につけていない状況がある。
 - タイプⅡは、物理 84.6%、化学 51.9%、生物 63.5%、地学 15.4%の通過率であった。地学を除く分野で、活用力は概ね定着もしているようである。しかし、生物分野で根拠をもとに推定したり、説明する力が十分身につけていない。
- 昨年度の課題への取組の成果
 - 昨年度は、観察・実験の操作がどのような意味を持つのか、また、根拠を明らかにしながら考察することを意識しながら指導を行ってきた。その結果、改善傾向はみられるが、科学的な用語を用いて表現する力はまだまだ、不十分である。

重点課題

【課題1】

地学分野の砂岩と判断する根拠を問う問題では、判断する視点は理解しているが、それによって正しく砂岩を選択できない生徒が多い。
本校の生徒の通過率 7.7%。(県通過率 17.5%)

【課題2】

地学分野の地層の広がり方を、異なる標高の地点から観察された柱状図をもとに、その傾きを3次元的にとらえる問題ができていない。
本校の通過率 23.1% (県通過率 28.4%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

標本により岩石の特徴を説明し、理解させるだけでなく、身のまわりにある岩石を使い、判別する作業を観察・実験として仕組む。

【課題2】

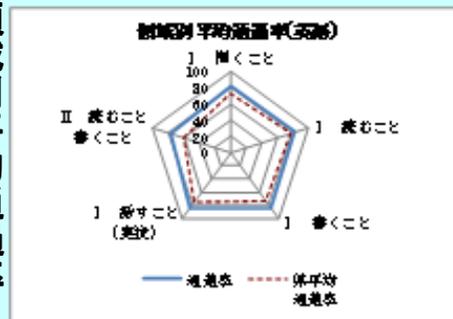
教科書等、2次元の図だけではなく、カラー粘土等で作った立体模型を使い、ボーリング調査を実験として行い、その資料から、地層の広がり方を考える、授業を仕組む。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年生期末試験				1年生期末試験
目標値			50%				50%
実施後数値							

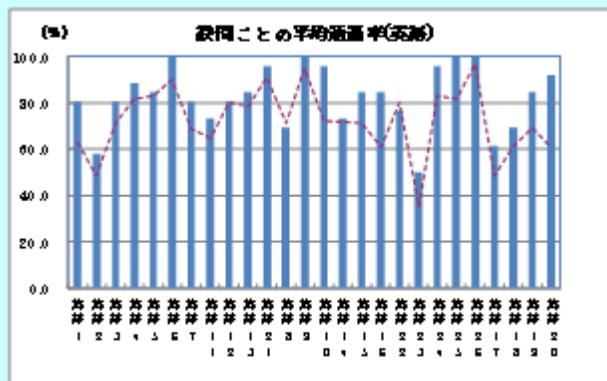
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2年期末試験				1年生期末試験
目標値			50%				50%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校82.5%, 県72.4%)

領域別平均通過率



教科書の平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向
英語科の結果において、タイプⅠは83.6%、タイプⅡは76.9%の通過率となっている。活用の力をさらに伸ばしていく必要がある。
- 昨年度の課題への取組の成果
昨年度は、文と文とのつながりを考え適切な質問文を書く表現の能力に課題があった。文法構造定着のためのドリル練習を行い、生徒自身に質問を考えさせる活動を行ったり、文のつながりを考えて対話を発表させたりした。昨年度より40.6%通過率を伸ばすことができた。(69.2%)

重点課題

- 【課題1】 基本的な文のきまりを理解した作文。(書くこと[6]-1) (本校通過率 69.2%, 県通過率 71.2%) this+名詞+be 動詞+形容詞の語順を正しく書くことができていない。This の形容詞の用法 についての知識を身に付けていない。また、前後の文を読んで語順を判断することができていない。
- 【課題2】 自分の考えや気持ちなどが正しく伝わるように話す。(実技2) (本校通過率 50.0%, 県通過率 35.4%) 現在進行形で聞かれた問いに対し、現在進行形の形で応答することができていない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

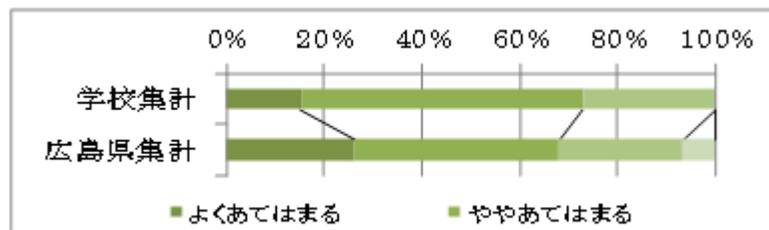
- 【課題1】 文構造の知識を定着させるために、帯活動で既習文構造のドリル練習を行う。語彙力を高めるために、既習語句を様々な形で使用させ、また辞書を活用して英文を書くなどの活動に取り組みさせる。文のつながりを意識させ、常にまとまりのある英文を聞く、話す、読む、書くことを練習させる。
- 【課題2】 「話すこと」の活動を増やし、場面に応じた時制を選択して使用できるように練習させる。本文についての Q and A 活動の中で、問われた形に対して正しい形で答えることができるよう練習させる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2学期中間試験		2学期期末試験			2年生学年末試験
目標値		70%		72%			75%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2学期中間試験		2学期期末試験			2年生学年末試験
目標値		52%		55%			60%
実施後数値							

(1) 生活・学習

授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思います。



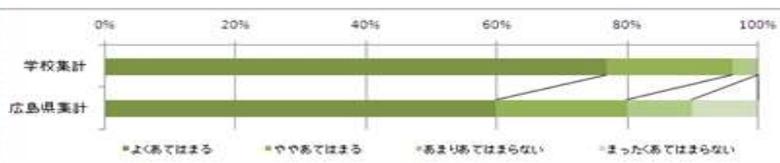
生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
『授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思います。』に肯定的な回答をした割合は、73.1%で、県平均を上回ったものの「よくあてはまる」と答えた生徒は県平均よりも11.2%低い。	課題発見・解決学習型の授業の中で、特に導入部分を工夫し、生徒の興味・関心・意欲を高める。	2	90%	生徒アンケート	2月		

(2) 教科

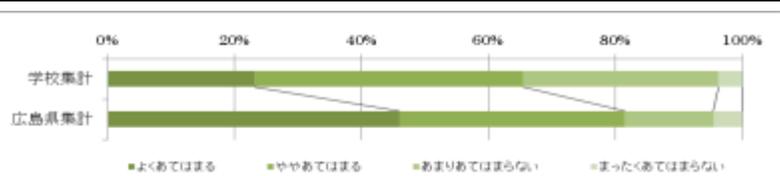
国語の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



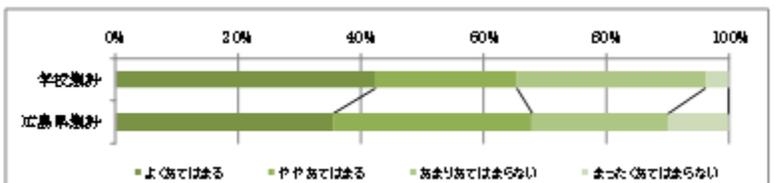
数学の授業では、自分の解き方や考え方の説明をノートに書いています。



理科の授業では、観察や実験を行うときは、自分で観察器具や実験器具を使っています。



英語の授業で学んだことを、普段の生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	「国語の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。」 (76.9%)	学習したことが、自分とどうつながっているのか、どのような場面で使えるのかを捉えさせていく学習展開をしていく。	2	85%	生徒アンケート	2月		
数学	「数学の授業では、自分の解き方や考え方の説明をノートに書いています。」 (88.5%)	自分の解き方や考え方の説明にとどまらず、仲間の考えもメモしながら、自分と仲間の考えを比較しながらノートを取り、深い学びを実現させていく。	2	92%	生徒アンケート	2月		
理科	「理科の授業では、観察や実験を行うときは、自分で観察器具や実験器具を使っています。」 (65.4%)	班などグループで行う実験で、グループの人数を4人以下(少数)にしたり、役割分担を明確にする。	2	85%	生徒アンケート	2月		
英語	「英語の授業で学んだことを、普段の生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。」 (65.4%)	学習内容と自分自身とのつながりを感じることができるようなパフォーマンス課題を設定する。また、視点を明確にした学習の振り返りを行う。	2	70%	生徒アンケート	2月		